



## KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow-

### 北米地域との青少年交流

#### 短期招へい大学第1スロット（大学生）

訪問日程 平成25年5月12日（月）～5月21日（火）

## 1 プログラム概要

5月12日から21日まで、KAKEHASHI Project-The Bridge for Tomorrow-（北米地域との青少年交流（米国））の一環として、米国マレー大学（州立）（ケンタッキー州）、ケント大学（州立）（オハイオ州）の大学生及び引率者計50名が来日した。一行は、「クールジャパン」に直接触れ、学ぶことを目的として、神戸を訪問し、地元の企業訪問、各地域の名所視察、地域の方々や大学生との交流会等を行った。日程終了後のアンケートで、「日本への理解度が非常に深まった」「ある程度深まった」と答えた参加者が計95%となった。

## 2 日程

5月12日（日）	本邦着
5月13日（月）	東京にて到着後オリエンテーション、浅草散策
5月14日（火）～18（土）	地方日程（神戸） 主な訪問先：関西国際センター（落語体験）、人と防災未来センター、理化学研究所、浜福鶴吟醸工房、有馬温泉街、カネテツデリカフーズ、神戸鉄人プロジェクト など 神戸学院大学（マレー大学）や関西学院大学（ケント大学）との交流
5月19日（日）	東京国立博物館、歌舞伎座ギャラリー、秋葉原散策
5月20日（月）	築地市場、明治神宮、日本滞在に関するディスカッション
5月21日（火）	本邦発

### 3 写真

	
<p>5月13日 浅草・浅草寺視察 (ケント大学)</p>	<p>5月14日 神戸学院大学との交流 (マレー大学)</p>
<p>May 13<sup>th</sup> Visit to Sensou-ji (Kent State Univ.)</p>	<p>May 14<sup>th</sup> Exchange program in Kobe-Gakuin Univ. (Murray State Univ.)</p>
	
<p>5月16日 有馬温泉 (足湯) 体験 (マレー大学)</p>	<p>5月16日 関西学院大学との交流 (ケント大学)</p>
<p>May 16<sup>th</sup> Arima-Onsen (footbath) experience (Murray State Univ.)</p>	<p>May 16<sup>th</sup> exchange program in Kansei-Gakuin Univ. (Murray State Univ.)</p>
	
<p>5月17日 浜福鶴吟醸工房視察 (マレー大学)</p>	<p>5月19日 日本舞踊体験 (ケント大学)</p>
<p>May 17<sup>th</sup> Visit to Hamafukutsuru Sake Brewery (Murray State Univ.)</p>	<p>May 19<sup>th</sup> Traditional Japanese Dance experience (Kent State Univ.)</p>



#### 4 参加者の感想

今回の体験で、私は自分の日本への愛を再確認しました。私は何年も日本語を勉強していて最近伸び悩んでいましたが、今回の滞在でさらにスキルが高まり、磨きがかかりました。このプログラムは、日本について学ぶのに教科書を丸ごと習っても叶わないほどの大きな変化を私にもたらせてくれました。滞在は長くはありませんでしたが、一生心に残る体験となりました。一番楽しかったのは道で人と出会って話げできたことでした。

外国語をネイティブの人の前で話す怖さを克服しました。日本文化の様々な面を味わうことができました。私の専攻は生物ですが、これからもっと日本について学び、日本の大学院に行きたいです。

とても楽しかったです。日本に来るのは中学生時代からの私の夢でした。親切な人にたくさん会い、日本語を話し、多くのことを学びました。ありがとうございます。

今回の経験は私にとって人生を変えるようなものであり、他の何ものにも代えがたい経験です。これからずっと付き合うような友達も出来たし、通りすがりの親切な人も含めて素晴らしい人々に会いました。私の日本語能力（聞き取り、話す能力）も少しずつ上達したと思います。まだまだ確信が持てない時もありますが、日本語を理解できたと感じることが多くなったように思います。日本文化、歴史の美しさ、素晴らしさに驚きました。このような経験を可能にして下さった方々が一番素晴らしいと思います。信じられないような経験をすることができました。心からありがとう。

私は自分が将来何をしたらいいのかずっと迷っていましたが、私は現在マレー州立大学で運動科学を主専攻、日本語を副専攻にしていますが、このプログラムによって今私が日本にいることには何か理由があると思うようになりました。私はこの経験から素晴らしいものを生み出すべきであると感じています。まだ将来何をするかはっきりと決めていませんが、何かアメリカと日本の関係により影響を与えることをしようと心に決めました。